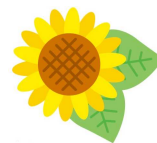


ひまわり



令和4年6月6日(月)

人間て小さいよね



先日、2年生の学年通信に、星座のことが書かれていました。時には宙（そら）を見上げて、心を落ち着けるとともに、小さな自分を感じることはとても大切です。

宇宙は「無」から生まれたという説があります。「無」とは、物質・空間・時間がない状態です。「無」は「0」ではありません。「0」は、3本のバナナがあって、それを全部食べてしまった状態。「無」とは、バナナもそれを食べた人も、食べた時間も存在しないこと。とても難し話ですね。し

かし「無」からごく小さな宇宙が生まれては消えているといえます。

私たちがいる宇宙は、138億年に生まれたものが、何らかの原因で消えずに成長したものであると考えられます。とても神秘的ですね。

宇宙については、まだまだ解明されていないことが多くあります。とりわけ、宇宙ができた瞬間のことは、仮説はあるものの全く分かっていません。将来、皆さんの中の誰かが解明してくれることを期待しています。

ところで、私たち人間は、138億年の壮大な宇宙の歴史においては、刹那（せつな）を生きています。生きているのか、生かされているのか。自らの力で「生きている」という思いが強すぎると、人は傲慢（ごうまん）になってしまいます。しかし、目に見えない力に「生かされている」ととらえることができれば、人は謙虚になれるものです。

宇宙の広がりやその歴史と比べると、私たちの存在は小さなものです。人の一生などは、瞬間的なものなのです。また「命」は自分のものですが、それは先祖からいただいたものです。このことを日頃から意識し、「自分勝手」になったり、「傲慢」になったりしている自分を戒めることが大切です。日々、自らを省みて、利他的で謙虚になることを目指してみましょう。

刹那：極めて短い時間

傲慢：思い上がり、おごり高ぶり、他人に対して見下すような態度で接する様子を形容する表現。

学校ホームページで、日々の教育活動のようすを公開しています。どうぞ、本校ホームページを閲覧してください。

